

茶室覚書

元伯宗旦 京都 裏千家 1649

一畳台目向板 重要文化財 こんにちあん

今日庵

外観：低い片流れの柿葺き屋根。

床：躰口から奥の壁面を床に見立て腰張りをしない

上部面戸板を入れ『織部床』にしている

茶道口と床の大半壁面のバランスが良い感じ

点前座：向う板の前を『向切の炉』を切り（向板空間は床の代

用）袖壁を付け中柱はこぶし 4.6尺の高さに花入釘を打つ

置花入は向板を用い、床の機能も果たし、腰張りは無し

天井：総化粧屋根裏、躰口から一番奥（床の間）が最も高い

- ・裏千家を代表する茶室 宗旦が、屋敷を江岑こうしんに譲り、隠居所として建てる 南面する
- ・『今日庵』は元伯の参禅の師、清巖和尚の「懈怠比丘不期明日」の命名とも、古径和尚の「不審花開今日春」の命名とも言われる
- ・水屋洞庫の扱いにも言及した茶室で、洞庫は下が簀子流し、高さ1.29尺に一重棚で水屋を凝縮したような構成 亭主は座したまま茶道具を片付けられる。

